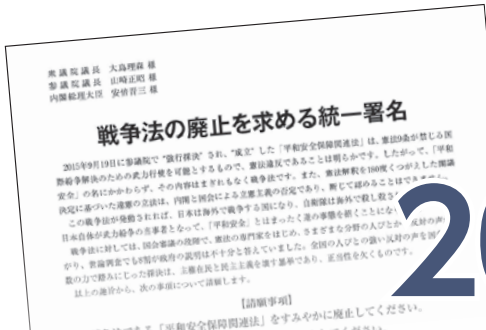




戦争法廃止全国統一署名

2000万筆達成を



日本共産党の志位和夫委員長は、10日に開いた第5回中央委員会総会への報告で、安保法制（戦争法）を廃止し、立憲主義を取り戻すことがこの夏にたたかわれる参議院選挙の最大の争点だと強調しました。

この中で志位氏は、戦争法の存続によって、①戦後初めて外国人を殺し、戦死者を出す危険が現実のものとなる、②安倍政権が戦争法強行にさいしてとった立憲主義を乱暴に破壊するやり方が、法治国家としての土台を根底から危うくしている、③安倍首相が自民・公明や「おおさか維新」など改憲勢力で3分の2以上の議席をめざすとして、明文改憲への執念をむきだしにしている、という3つの大問題が引き起こされていると指摘。戦争法廃止を文字通り参院選の争点に押し上げるために、総がかり行動実行委員会が呼びかけ

憲法記念日の発表に向け、呼びかけ広げよう

2000万人を目標にとりくまれている全国統一署名の成功に全力をあげることを訴えました。

日本共産党は、自主的に1000万筆の目標をかかげ、北区では3万の目標に対し、1万8000筆を集約しています（13日現在）。

署名の集約結果は5月3日の憲法記念日に発表されることになっています。残された期間、あとひとまわり、ふたまわりと署名への協力の呼びかけを広げ、力をあわせて必ず目標を達成しましょう。（のの山けん）



赤羽駅東口で署名を訴える、そねはじめ都議 = 10日

安倍政権打倒へ、衆院小選挙区に12氏

日本共産党都委員会が発表 12区には池内さおり衆院議員

日本共産党都委員会は3月30日、東京25の衆院小選挙区のうち、第1次分として12区（北区・足立区西部）の池内さおり衆院議員（写真）を含む12氏（現職2人、新人10人）を予定候補として発表しました。男性8人、女性4人で、最も若い候補者は24歳（選挙時25歳）、平均年齢は43.5歳です。



少数会派の権利奪う改悪

多数与党が1人会派を認めない議会ルール改定を強行

北区議会の自民、公明、民主区民クラブの3会派は、8日に開かれた議会運営委員会で、一人会派を認めないなどとする議会ルールの改定を多数決で強行、日本共産党は、少数会派の権利を奪う改悪だと批判し反対しました。

非交渉会派を幹事長会から排除

ことの発端は、昨年の区議会改選直後に開かれた5月11日の各派代表者会で、オプザーバー参加が認められていた2人以下の非交渉会派が、幹事長会から突然排除されたことになりました。

こうした不正常な運営に対し、日本共産党と4つの非交渉会派（社民、新社会、東京

維新、元気会）は、議会改革検討会でも繰り返し改善と再審議を求めましたが、座長（自民）、副座長（公明）は最後までこれを受け入れませんでした。

議会運営は全会派での合意こそ原則

ところが、この3月、自民会派と議長が、これまでの一人会派は無党派議員とし公式な場で党名を名乗らせない、交渉会派以外は幹事長会に出席させないなどとする変更案をいきなり提起。全会一致を旨とする幹事長会ではまとまらず議運での採決に持ち込まれましたが、全会派合意が原則の議会運営を多数決で一方的に改変したことに、批判は免れません。

平和で温かい街壊すな

志茂86号線裁判 口頭弁論で2原告が陳述

住民合意を無視した道路計画の是非が問われる志茂86号線認可取消し裁判は、13日に東京地裁で第3回口頭弁論が開かれ、原告団を代表して2人が意見陳述をおこないました。

北清掃工場の環境を考える会の荻原通弘会長は、昭和40年代に志茂1丁目におけるゴミ焼場建設反対運動をへて締結された協定が、日本における先駆的な公害防止協定となったことを強調、その当事者である都が道路拡幅で環境悪化をもたらそうとしていることを厳しく批判しました。

地元で寿司屋を営む中田守喜さんは、やっと平和で温かくなった街に、また町内を割ろうとする大問題が持ち込まれていると指摘、ぬくもりのある街を壊さないでほしいと訴えました。



口頭弁論後の原告団報告集会



桜の花の下で 党後援会 お花見会

日本共産党志茂・赤羽後援会は11日、荒川と新河岸川に挟まれた土手で、お花見会を開催しました（写真）。

時折強い風が吹く日でしたが、散りかけた桜の花の下で、各自が持ち寄った手作り料理などに舌鼓を打ち、缶ビールで乾杯しながら、楽しいおしゃべりで交流を深めました。（のの山けん）